

GTEC

／ すぐに使える ／

CEFR 別

発表

やりとり

書くこと

英語指導案

保存版

©2020 Benesse Corporation

「GTEC」は、株式会社ベネッセコーポレーションの登録商標です。

もくじ contents

もくじ	1
この冊子の使い方	2
Speaking 発表  回答例と指導案	
A1 下位から A1 上位を目指す	3・4
A1 上位から A2 下位を目指す	5・6
A2 下位から A2 上位を目指す	7・8
A2 上位から B1 を目指す	9・10
B1 から B2 を目指す	11・12

Speaking やりとり 指導案

A1 から A2 下位を目指す	13・14
A2 下位から A2 上位を目指す	15・16
A2 上位から B1 を目指す①	17・18
A2 上位から B1 を目指す②	19・20
B1 から B2 を目指す①	21・22
B1 から B2 を目指す②	23・24

Writing 書く 回答例と指導案

A1 下位から A1 上位を目指す	25・26
A1 上位から A2 下位を目指す	27・28
A2 下位から A2 上位を目指す	29・30
A2 上位から B1 を目指す	31・32
B1 から B2 を目指す	33・34

※ **GTEC 指導事例**  と検索すると、Web 上でも PDF で同じ情報をご覧いただけます。

この冊子の使い方

カンタン 3 ステップ

1 伸ばしたいスキルと CEFR レベルを確認

この冊子では「発表」「やりとり」「書く」の3つの領域ごとに、CEFRのレベル別に特徴的な回答と次のレベルを目指すための指導案を掲載しています。「もくじ」にて参照したいページを確認してください。

2 該当の指導案を確認

領域
 技能と「発表」「やりとり」「書くこと」のどの領域か確認できます。

CEFR レベル


次のレベルを目指すための指導案

発表 Speaking 

対象レベル
 A1 下位

目標 単語レベルの発話を、センテンスレベル(S+V)の発話にする

所要時間 15分

準備物 ビクチャーカード
 性別や年齢の異なる2人がある動作をしているカードを複数枚用意する。動作はどのカードも同じにし、動作の対象、方向が異なるものにする。センテンスを覚えることが目的のため、単語を覚えてからのビクチャーカードがわかるようなものは使用しない。

1 (個人)
 ●ビクチャーカードを生徒に見せる。
 ●ビクチャーカードに描かれている情報を、生徒に英語のセンテンスで言う。

2 (個人)
 ●クラスの半分に彼らを向かせる。
 ●残りの生徒に新しいビクチャーカードを見せ、一人の生徒に英語のセンテンスや内容を発音させる。
 ●残るを聞いていた生徒はそれを聞きとらせる。メモをとってよいことも伝える。
 ●そのビクチャーカードを裏面に貼り、そこに他の3つのビクチャーカードを貼る。
 ●残るを聞いていた生徒に前を向かせ、その中から正しいカードを選ぶ。

3 (グループ)
 ●新しい4つのビクチャーカードを裏面に貼る。
 ●生徒を4人のグループに分け、教師は残るの4つのビクチャーカードを各グループに渡す。
 ●ビクチャーの内容が見えないように裏返しにしたまま、各生徒に1枚選んでもらう。
 ●教師のグループメンバーにカードの内容を指したまま、順番に内容を英語のセンテンスで言う。
 ●全員が発表し終えた後、誰がどのビクチャーを持っているかグループで確認する。
 ●裏面に貼るビクチャーカードに数字をつけ、生徒には数字カードを渡すというでも可。

POINT
 ●準備時間: この活動では発話の前に生徒に準備時間を与える必要はありません。
 ●教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標のため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。他の生徒の発話を聞くことで、自分の誤りに気づき、修正するという、自発的な修正を促しましょう。

準備物や目安時間
 指導案に必要な準備物や目安の取り組み時間がわかります。

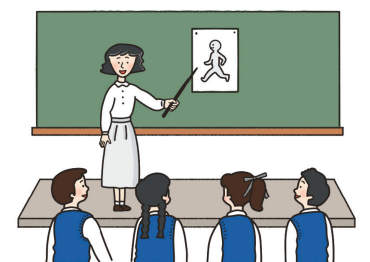
CEFR のレベル別の特徴をとらえた回答例
 該当レベルの特徴と、次のレベルの回答例が確認できます。

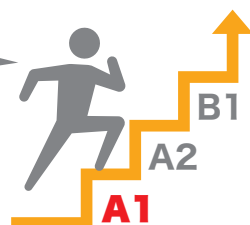
ポイント
 指導案を授業に取り入れるにあたり、留意する点などが書かれています。

3 授業に取り入れる

目安の必要時間と用意するものを参考に、ぜひ学校での指導にお使いください。

※紹介する指導案は一例です。CEFRのレベルを上げるには、一定期間頻度を保って指導する必要があります。





問題と回答例

Q. Do you think it's good to start learning English from elementary school?

A1下位 回答例



I think that I...I think...so too.
I think...it...aaa...impor...tant for life.

A1下位の特徴

センテンスを使ってアイデアを表現することがまだ**苦手**です。
単語と単語の間に**言いよどみ**が目立ちます。



A1上位 回答例



I think English should be start from in elementary school too.
One reason, ...English is difficult.

A1上位の特徴

1つのセンテンスを使って**簡単なアイデア**を表現することができます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A1下位 → A1上位を目指すための指導案

目標

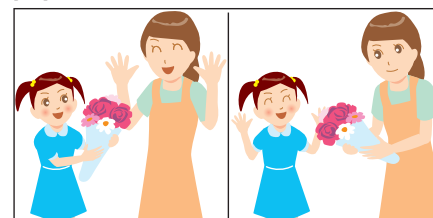
単語レベルの発話を、センテンスレベル(S+V)の発話にする

(例)



目安時間

15分



準備物 ピクチャーカード

性別や年齢の異なる2人がある動作をしているカードを複数個用意する。動作はどのカードも同じにし、動作の対象、方向が異なるものにする。センテンスを言わせることが目的のため、単語を言えばどのピクチャーカードかわかるようなものは使用しない。

ステップ

1

(全体)

- ピクチャーカードを生徒に見せる。
- ピクチャーカードに描かれている情報を、生徒に英語のセンテンスで言わせる。



ステップ

2

(全体)

- クラスの半分に後ろを向かせる。
- 残りの生徒に新しいピクチャーカードを見せ、一人の生徒に英語のセンテンスで内容を表現させる。
- 後ろを向いている生徒にはそれを聞きとらせる。メモをとってもよいことも伝える。
- そのピクチャーカードを黒板に貼り、そこに他の3つのピクチャーカードを足す。
- 後ろを向いていた生徒に前を向け、正しいカードを当てさせる。



ステップ

3

(グループ)

- 新しい4つのピクチャーカードを黒板に貼る。
- 生徒を4人のグループに分け、教師は同様の4つのピクチャーカードを各グループに渡す。
- ピクチャーの内容が見えないように裏返しにしたまま、各生徒に1つ選んでもらう。
- 他のグループメンバーにカードの内容を隠したまま、順番に内容を英語のセンテンスで答える。
- 全員が発表し終えた後、誰がどのピクチャーを持っているかグループで確認する。



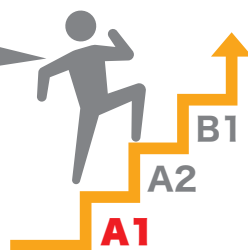
黒板に貼るピクチャーカードに数字をつけ、生徒には数字カードを渡すというでも可。



POINT

準備時間: この活動では発話の前に生徒に準備時間を与える必要はありません。

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標のため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。他の生徒の発話を聞くことで、自分の誤りに気がつき、修正するという、自発的な修正を促しましょう。



問題と回答例

Q. Do you think it's good to start learning English from elementary school?

A1 上位 回答例



I think English should be start from in elementary school too. One reason, ...English is difficult.

A1 上位の特徴

1つのセンテンスを使って**簡単なアイデア**を表現することができます。

A2 下位 回答例



I think so. It in my opinion...it is good...English is taught starting from elementary school. Because...because I have one reason for this, first, it is important to know foreign culture.

A2 下位の特徴

2つのセンテンスを“because”などの**接続詞**で繋げて、**簡単なアイデア**を**シンプル**な英語で表現できます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A1 上位 → A2 下位を目指すための指導案

目標

単文の発話を、接続詞で繋げた2文の発話にする

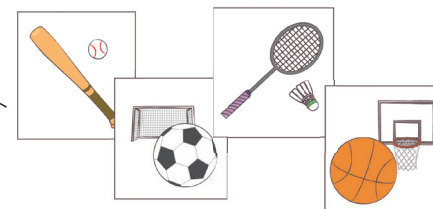


目安時間

20分

準備物 ピクチャーカード

- 1つのカテゴリーで少なくとも4つのものを表現する。
- スポーツの場合: サッカー、野球、バドミントン、バスケットボールなど。
- 季節の場合: 4つの季節のカレンダーなど。
- できるだけ生徒になじみのあるカテゴリーを選ぶ。



ステップ

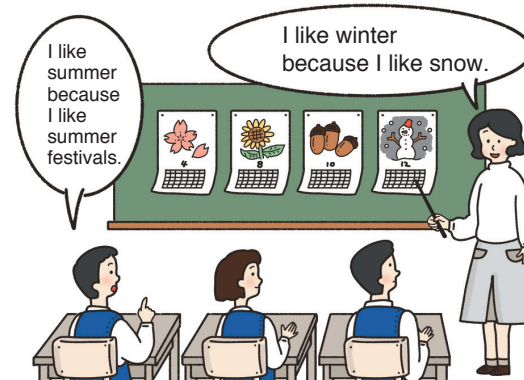
1

(全体)

- ピクチャーカードを黒板に貼る。
- “because”と板書する。
- 好きなことや好きではないことなどについてbecauseを使った英文を話す。
- 生徒にもbecauseを使った英文を口頭で共有させる。



ここでいろいろなアイデアを生徒から引き出すとよい。



ステップ

2

(グループ)

- 新しいピクチャーカードを黒板に貼る。
- 生徒を4人のグループに分け、4つのピクチャーカードの内容を使って、ステップ1でやったように好きなことや好きではないことなどについてbecauseを使った英文を口頭で共有させる。



ステップ

3

(全体)

各グループで出てきた英文を発表させ、それを板書する。



ユニークで面白いと思った英文や、上手に英語で表現できているものは特に褒めるとよい。

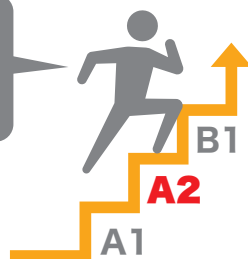


POINT

準備時間: カテゴリーの内容が生徒になじみのない場合は、発話の前に生徒に準備時間を与えてください。なじみのある内容の場合は、準備時間は不要です。

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが大切なため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。他の生徒の発話を聞く、ステップ3で教師が板書したのを見るなどして、生徒が自分の誤りに気づいて修正するという、自発的な誤り修正にとどめてください。

指導の発展方法: becauseだけではなく、soやbutを使って同じ活動ができます。



問題と回答例

Q. イラストの男の子になったつもりで、昨日起こった出来事を説明しなさい。



A2下位 回答例



Yesterday, I get up in the morning. UFO is...is outside.
I'm very surprised, so I...glasses. When I see UFO again,
it's not UFO. It's...it was airplane.

A2下位の特徴

2つのセンテンスを“because”などの接続詞で繋げて、簡単なアイデアをシンプルな英語で表現できます。

A2上位 回答例



Yesterday, I got up in the morning and I saw a UFO outside
the window. I'm very surprised, so I put on my glasses. But
it was not a UFO but an airplane.

A2上位の特徴

複数のセンテンスを繋げて日常的な活動などについて話すことができます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A2下位 → A2上位を目指すための指導案

目標

2文程度の短い発話を、繋がりのある長めの発話にする



目安時間

30分

準備物 ピクチャーストーリー/タイマー

様々な結末が連想できそうな話を選ぶ。
ピクチャーストーリーは、4コマのうち最後の1コマを隠す。

ステップ

1

(全体)

- ピクチャーストーリーを黒板に貼り、生徒に最後のコマを予想させ日本語で共有させる。
- 各コマを、英語を使って表現させる。
- 各コマを繋げるために役立つ表現をいくつか板書する。



板書する表現の例:

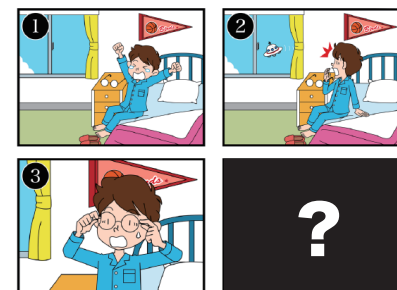
then, after that, next day, so など

- 板書した表現を使って、4コマのストーリーを発表させる。



エンディングは一人ひとり違うので、様々なストーリーを発表してもらう。

ピクチャーストーリー例



ステップ

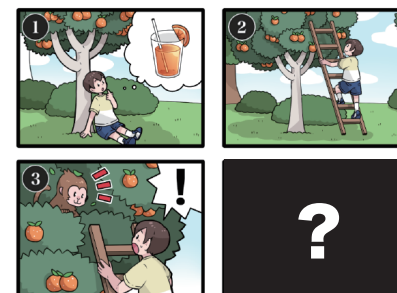
2

(グループ)

- 新しいピクチャーストーリーを黒板に貼る。
- 生徒を4人のグループに分け、最後のコマを予想しながら英語でストーリーをつくるよう指示する。
- 各グループのストーリーを発表させる。



よくできている例や面白いものは特に褒めるとよい。



ステップ

3

(ペア)

- 黒板に1つのテーマを書く。



テーマの例:

週末の出来事、家族旅行、夏休みの1日など

- 1分間、個人でストーリーを考える時間を与える。
- 生徒をペアに分け、互いに発表させる。



ステップ1で提示した、各コマを繋げるための表現を積極的に使ってもらう。

- 教師は巡回し、面白いと思ったストーリーやよく表現できている生徒を数名選び、発表させる。



POINT

教師の関わり方: よくある誤りやよい表現は、板書で補足説明をしてください。英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。



問題と回答例

Q. Some people think English should be taught starting from the first grade in elementary school. What do you think about this? Give at least one reason to support your opinion.

A2上位 回答例



I don't think so, because we are Japanese. First grade in elementary school time we are not good for Japanese, so we should study Japanese first. After we studying Japanese then, we can learn English. Japanese... so Japanese is more important for us.

A2上位の特徴

複数のセンテンスを繋げて日常的な活動などについて話すことができます。

B1 回答例



I think students should be taught English from first grade. I have 2 reason. First we can skill up English speaking skills like in pronunciation. Second that experience of learning from young age is useful in the future so I think students should be taught English from first grade.

B1の特徴

社会的な問題に対してある程度明確に意見を言ったり、長めの発話ができます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A2上位 → B1を目指すための指導案

目標

身近なトピックのみならず、社会的な問題などについても自分の意見を長めに発話する



目安時間

15分

準備物

袋／トピックカード(身近な問題)／タイマー／録音をするもの(可能であれば)

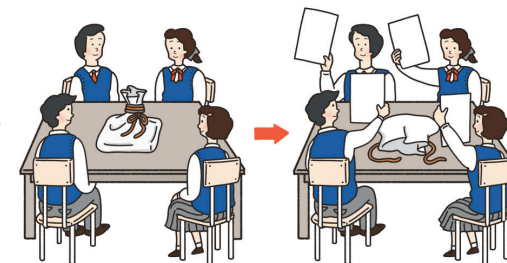
トピック例: Schools shouldn't allow students to use their cell phones while at school.

ステップ

1

(グループ)

- 生徒を4人のグループに分ける。
- トピックカードを入れた袋を各グループに渡す。
- 生徒に一齐に袋からトピックカードを引かせる。



ステップ

2

(グループ)

- スピーチの準備を1分間で行わせる。

ステップ

3

(グループ)

- 発表時間は1分程度にし、第一話者を決めてスピーチを始める。
- 同じグループの生徒は、発表者の意見と理由(具体例)をメモに取りながら聞く。
- 録音が可能な場合は、スピーチの録音を毎回行う。



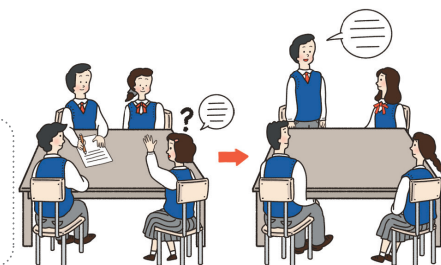
考える時間の延長はなるべく行わず、各生徒が既に思っていることを話す。

ステップ

4

(グループ)

- 聞いていた生徒は、発表者に対して「理解が難しかった部分」や「より具体的な説明が必要な部分」に関する質問をし、次の発表内容や方法に活かす。
- 録音が可能な場合は、ステップ3で録音した音声を生徒がそれぞれ書き落とし、自己修正する。



ステップ4で質問をさせる目的は、質問を貰うことで発表者がどのように話せば良いかを気づくことであるため、各発表者は全ての質問にその場で必ず答える必要はない。

ステップ

5

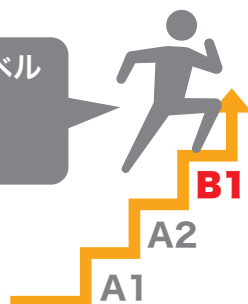
(グループ)

- 全ての生徒の発表が終わると、グループを変える。
- 新しいメンバーに同じ内容のスピーチを行い、より正しく発話する力をつける。



POINT

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ4での自発的に間違いを修正する形にしてください。



問題と回答例

Q. Some people think English should be taught starting from the first grade in elementary school. What do you think about this? Give at least one reason to support your opinion.

B1 回答例



I think students should be taught English from first grade. I have two reason. First, we can skill up English speaking skills like in pronunciation. Second that experience of learning from young age is useful in the future so I think students should be taught English from first grade.

B1の特徴

社会的な問題に対してある程度明確に意見を言ったり、長めの発話ができます。

B2 回答例



I agree with the opinion because children will learn how to speak and understand English much better than when they are adult. The younger they start learning the more native-like speaking is possible. Native-like English speaking ability will make it possible for them to complete and debate more globally and will be good for the future of Japan too, because companies will be stronger in the world if workers speak Native-like English.

B2の特徴

さらに発話の内容が複雑になり、その複雑な内容を明確な流れのロジックで話すことができます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

B1 → B2を目指すための指導案

目標

社会的な問題などについて、ある程度の長さの意見を明確な流れのロジックで発話する



目安時間

40分

準備物

ディベートのトピック(例:英語教育の早期化)/タイマー

※他のトピックの例は、P.21を参照。

ステップ

1

(全体)

- トピックを生徒に見せる。
- 意見をサポートする理由を生徒に出してもらい、簡潔に板書する。
- それぞれの理由をサポートする具体例や意見などを生徒から引き出し、黒板にキーワードを英語で書き出す。
- 同様に、この意見に反対する理由とそれをサポートするものを生徒から引き出す。



ステップ

2

(各自)

- トピックに対して、スピーチの準備時間(1～2分)を与える。
- 各生徒に理由を2つ、それをサポートする具体例を考えさせる。
- スピーチの構成を考えながら発表する準備をさせる。



B1以上では、客観的な視点を入れながら、ある程度自分で論を組み立てる必要がある。そのため、発表するまでに準備時間が必要となる。場合によっては、宿題として事前に調べてきてもらうとよい。



ステップ

3

(グループ)

- 生徒を4人1組のグループに分け、生徒に順番に発表させる。
- 1人の発表が終わるたびに、聞いていた人から質問させる。
- その際、質問する人は、「話している人と反対の意見を持っている」という立場から質問する。



質問するときは、いきなり質問するのではなく、「あなたは〇〇と言っていましたね。その点についてですが、〇〇についてはどう思いますか?」「あなたの〇〇という点には賛成です。しかし、～～」というように、発表者の意見に触れながら質問をさせるようにする。



ステップ

4

(全体)

- クラス全体で、意見に賛成の人数と、反対の人数を数える。
- ステップ3でよくできていた生徒のうち賛成1名、反対1名に発表してもらう。
- 各発表者のスピーチの構成についてクラスで確認する。理由は何だったのか、それをサポートするものは何だったのか、生徒に聞き、板書する。
- 特によかった点を褒める。



POINT

教師の関わり方: 生徒から意見を引き出す場合は、日本語でも英語でもどちらでも構いません。生徒にとって日本語の方が意見が出しやすいと教師が判断した場合、日本語を進めてください。

Speaking

対象レベル

A1



※「やりとり」は「発表」パートにおいてアイデアを英語にして発信するという力をつけた後、取り組んだ方が効果的です。
A1下位、上位といった指導案の区切りはつけておりません。

A1、A2下位の回答例は「Speaking 発表」の3、5ページをご覧ください。

A1の特徴

既習のシンプルな定型表現

(例: “How are you?” “I’m fine, thank you.”/

“Where are you from?” “I’m from Japan.”)を使って簡単なやりとりができます。

A2下位の特徴

既習の定型表現以外に、単語やフレーズを使って**短く簡単なやりとり**ができます。

準備のための具体例

ピクチャーカードを用意する！

簡単な英語の単語とセンテンスで質問ができる場面ものを選んでください。メニューは写真などがついた、見てすぐに内容がわかるようなものを選んでください。

テーマ② レストランでの注文

Becky's Restaurant

Main Dish



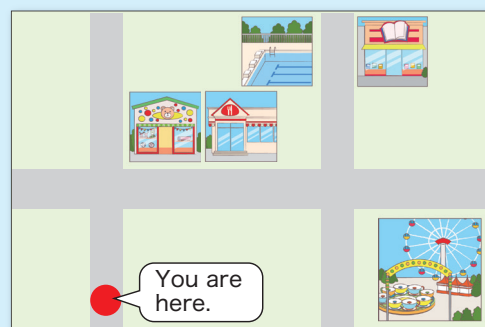
Side Dish



Drink



テーマ① 道案内



テーマ③ お買い物

John's Umbrella Shop



A1 → A2下位を目指すための指導案

目標

内容がある程度想定できる身近なトピックに関して、単語・フレーズレベルでやりとりを行う



目安時間

20分

準備物 ピクチャーカード

ステップ

1

(全体)

- 教師はピクチャーカードを見せ(例:道案内)、そこにいることを想像させる。
- できるだけ英語の得意な生徒を1人選んで道順の質問をし、答えさせる。
- 同じことを数名の生徒に1人ずつ行わせる。

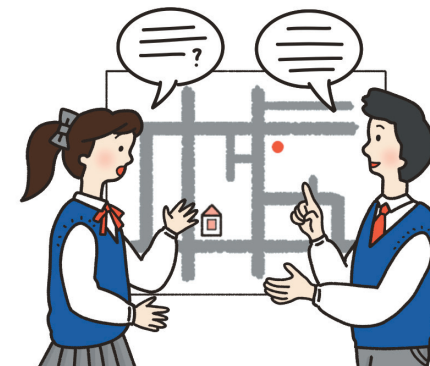


ステップ

2

(ペア)

- 生徒をペアに分け、1人は道を尋ねる役、もう1人は答える役にさせる。
- やりとりをした後、役割を変えさせる。



ステップ

3

(ペア)

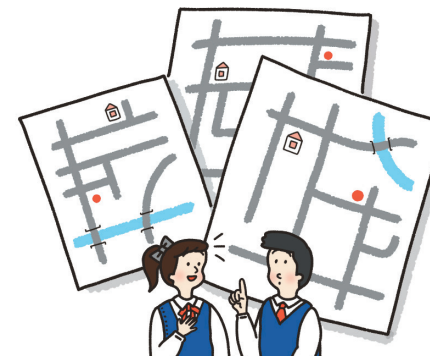
- 異なる地図のピクチャーカードに変え、ステップ2を繰り返す。

ステップ

4

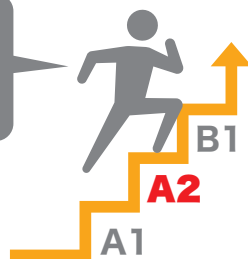
(ペア)

- 違う場面の設定で、ステップ2を繰り返す。



POINT

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。



A2下位、A2上位の回答例は「Speaking 発表」7ページをご覧ください。

A2下位の特徴

日常生活で頻繁に使われる簡単なやりとりを、非常に短い発話でできますが、会話を続けることは困難です。

A2上位の特徴

身近なトピックについて短い会話をを行うことができますようになります。会話上でよく使われる5W1Hの質問をしたり、そのような質問に適切に答えたりすることができます。

活動の具体例

Fillerを使ってみよう！

Well...

考えるときに使う

Fillerは、会話をスムーズに行うために使われる表現です。質問されてすぐに答えられないときの時間稼ぎや、言ったことを言い直したいときに、以下の表現を生徒が使えるような働きかけをしましょう。

右ページのステップ2で、質問に答えるときに“ Well...”と言ってから回答するように指示を出してください。

I mean...

言い直すときに使う

右ページのステップ4で、質問に答えるときに“ I mean...”と言ったあと言い直すように指示を出してください。

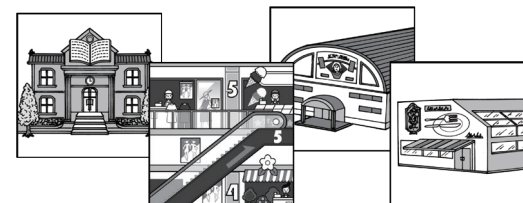
A2下位 → A2上位を目指すための指導案

目標 身近なトピックについて短い会話を行うことができる

目安時間
15分

準備物 ピクチャーカード

場面設定に使う。生徒にとって身近な場面のものを選ぶ。



ステップ
1
(全体)

- 5W1H “when” “where” “who” “what” “why” “how” を板書する。
- ピクチャーカードを1つ提示し、教師がそれに関連する英文を話す。

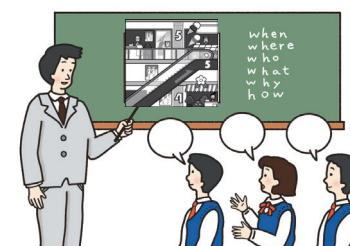


例: I am going to go to a shopping mall.

- 教師が話した英文に対して、黒板に書いた疑問詞を使って生徒に質問させる。出てきた質問は板書する。



生徒が発話した質問文に文法などの誤りがあるときは、正しく修正した英文を書く。

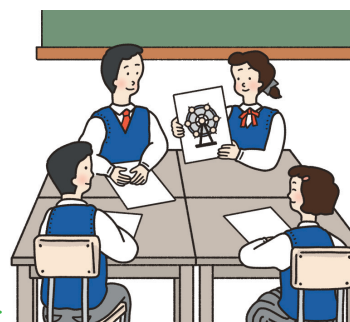


ステップ
2
(グループ)

- 新しいピクチャーカードを黒板に貼る。
- ステップ1で使ったピクチャーカードと似たような質問ができるものを選ぶ。
- 生徒を4人のグループに分け、1人1つピクチャーカードを選ぶ。
- 生徒は1人ずつ順番に、自分が持っているカードをグループ内のメンバーに見せる。教師の英文を参考に“ I am going to go to ~.” と話す。



できる範囲でよいので、1つのカードに対して5W1Hすべてを使うように指示する。



ステップ
3
(全体)

- 新しいピクチャーカードを使って、ステップ1と同じ流れを、今度は過去形を使って行う。
- ※黒板に、5W1Hの代わりに、“ Last weekend” と書き、“ I went to a shopping mall last weekend.” など話す。

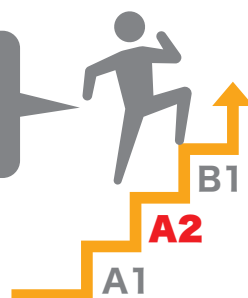
ステップ
4
(グループ)

- ステップ2と同じ流れを、過去形を使って行う。



POINT

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ1で板書された正しいものを見る、ステップ2で他の生徒の発話を聞くなどを通して、自発的な誤り修正を促してください。



A2上位、B1の回答例は「Speaking 発表」の9ページをご覧ください。

A2上位の特徴

身近なトピックに関して短い会話をすることができます。

B1の特徴

ある程度知見のある内容のトピックであれば、社会的な問題などの簡単なディスカッションをしたり、意見を言ったりすることができます。

活動の具体例

右のステップ1の例

トピックを見せる Some people think English should be taught starting from the first grade in elementary school. What do you think about this?

教師が回答を例示 I agree with this opinion because learning a new language takes a long time. If English education started from the first grade, there would be more time and more opportunities for students to learn the language. Also, young learners are good at learning pronunciation, and this is not the case for older learners. So, starting early has another advantage.

生徒に意見を聞く What do you think about this?

使える表現の紹介 "I agree with your opinion. It is because ..." / "I also think that ... It is because ..." / "I see your point, but I think..." / "I hear what you are saying, but I think..." / "You made a good point, but I have to disagree with you. I think..."

A2上位 → B1を目指すための指導案①

目標 簡単なディスカッションをしたり、意見を言ったりすることができる

目安時間
20分

準備物

袋／トピックカード(身近な問題)／タイマー／録音をするもの(可能であれば)
トピック例: Schools shouldn't allow students to use their cell phones while at school.

ステップ 1

(全体)

- 初めにトピックを提示し、モデルとして教師が先に発表をする。
- 生徒に教師の発表内容に賛成か反対か、その理由を聞き、生徒の回答を板書する。
- この場面で使える表現をいくつか板書する。その表現を使って数人に教師の発表内容に対する意見を共有させる。



発表者への意見や質問が出てこない場合は、どんな質問ができるか例を見せる。

ステップ 2

(全体)

- 意見だけでなく、発表者にどんな質問ができるのかも聞き、出てきたアイデアを板書する。

ステップ 3

(グループ)

- 「発表」のA2上位(p10 ステップ1～3)で取り扱った指導案を行う。

ステップ 4

(グループ)

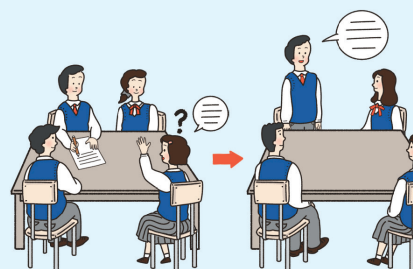
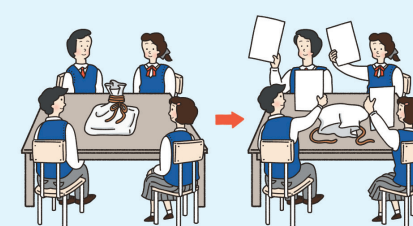
- 聞き手だったグループメンバーはステップ1や2で学んだことを踏まえて、発表者への意見と質問を考える。

ステップ 5

(グループ)

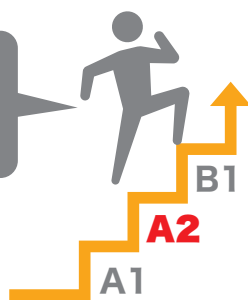
- グループメンバーから発表者へ意見と質問をし、発表者はそれに答える。

ステップ3の活動の流れ



POINT

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ1、2で板書された正しいものを見る、ステップ3で他の生徒の発言を聞くなどを通して、自発的に誤りの修正をする形を目指してください。



A2上位、B1の回答例は「Speaking 発表」の9ページをご覧ください。

A2上位の特徴

身近なトピックに関して短い会話をすることができます。

B1の特徴

ある程度知見のある内容のトピックであれば、社会的な問題などの簡単なディスカッションをしたり、意見を言ったりすることができます。

活動の具体例

テーマ例

下記のようなアイデアを使って右記のような活動が可能です。

おすすめの観光地

アメリカからの留学生数名があなたの街に来ます。どこに連れていきますか？3つの場所を考え、どうしてそこを選んだのか理由をつけてください。グループで話し合い、3つの場所を選んでください。

日本文化の紹介

シンガポールからの留学生があなたのクラスに来るので、日本の文化について発表しようと思います。日本の文化で3つ紹介すべきだと思うものをリストアップし、その理由を考えてください。グループで話し合い、3つを選んでください。

A2上位 → B1を目指すための指導案②

目標

簡単なディスカッションをしたり、意見を言ったりすることができる



目安時間

20分

準備物

トピックカード(身近な問題)/タイマー/録音するもの(可能であれば)

トピック例: If you were about to go to a desert island and had to spend a few weeks there, what would you take with you?

ステップ

1

(全体)

- まず状況設定として、生徒たちがこれから無人島に行き、数週間そこで過ごさなければならないことを伝える。
- 各自に5つ持っていくものをリストアップしてもらい、なぜそう考えたか説明も考えてもらう。



ステップ

2

(グループ)

- 生徒を4人1組のグループに分ける。
- 1人ずつ、5つ持っていくものとその理由を説明してもらい、全員のアイデアの共有が終わったあと、グループ全体として5つだけ何を持っていくかを話し合い、グループとして最終決定をする。



ステップ

3

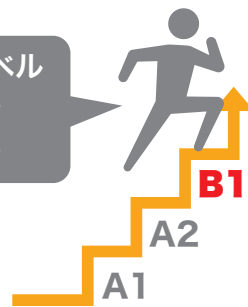
(全体)

- 各グループの結果をクラス全体で発表する。
- この場面で使えるいくつかの表現を板書し、その表現を使ってステップ1から3を違うトピックで行う(左記他のテーマ例)。



POINT

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ3のあと、多くの生徒が間違えて表現していたものを1〜2つ挙げ、黒板に正しい表現などを書いてクラス全体で確認するなど、全体で確認する程度にしてください。



※B1、B2の回答例は「Speaking 発表」の11ページをご覧ください。

B1の特徴

ある程度知見のある内容のトピックであれば、社会的な問題などの簡単なディスカッションをしたり、意見を言ったりすることができます。

B2の特徴

いろいろなトピックに対して、ある程度複雑な内容の長めのやりとりを行うことができます。

B1 → B2を目指すための指導案①

目標

ある程度複雑な内容の長めのやりとりができる



目安時間

20分

準備物 Opinion Question

トピックの難度を考慮して選ぶ。

B2のやりとりの力を付けるには、発表のB1 (P.12) で取り扱ったステップ1～3を行います。ステップ1のトピックは授業で扱った教科書の読み物の内容を使うと、生徒から複雑な内容の発話を引き出すことができます。トピックが自分のことであったり、あまり複雑なものでなかったりすると、B1レベルの発話になってしまうのでトピックの難度を考慮して選んでください。

ステップ

1

(ペア)

- 発表のB1 (P.12) で取り扱ったステップ1～3の後、聞き手だった生徒に発表者へ質問や、自分の意見(賛成や反対)を詳しい理由を付けて言わせる。



発表者への意見や質問が出てこない場合は、どんな質問ができるか例を見せる。



ステップ

2

(ペア)

- 発表者に聞き手の意見に、応対させる。ここでは、各聞き手ごとに少なくとも3～4回のやりとりを行わせる。



聞き手と発表者のやりとりが1度のみになると、B1レベルの活動になるので注意する。



準備のための具体例

Opinion Questionを用意する！

トピックは授業で扱った教科書の内容を使うと、生徒から複雑な内容の発話を引き出すことができます。

Opinion Question 例1

Do you think robots will make our life better?

Opinion Question 例2

Do you think the development of AI will make us happier?

Opinion Question 例3

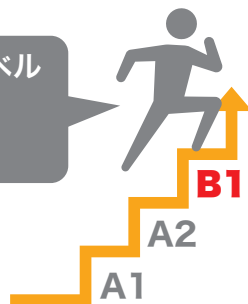
Do you think high school students should have their own smartphones?



POINT

聞き手が発表者に自分の意見をうまく伝えられていない、または発表者が聞き手の意見にうまく応対できていない時は、賛成や反対意見をどのように伝えるのかの指導が必要になります。様々な表現(例:I think you have valid points, but～)を教えてください。

教師の関わり方: 英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ2の後、多くの生徒が間違えて表現していたものを数個挙げ、黒板に正しい表現などを書いて、全体で確認する程度にしてください。



B1、B2の回答例は、「Speaking 発表」の11ページをご覧ください。

B1の特徴

簡単なディスカッションをしたり、意見を言ったりすることができます。

B2の特徴

ある程度複雑なやりとりや、詳細な感情表現などを含めたやりとりを行うことができます。

ロールプレイカードの例

ロールプレイカードを用意する！

- ・交渉をする役(A)と、交渉に対応する役(B)に分けます。
- ・対応する役(B)には、交渉の要求をできるだけ受け入れないという姿勢をとるよう指示します。

例：靴屋での客(A)と店員(B)の設定

A You bought a pair of shoes on sale at XYZ Shoe Shop yesterday. When you tried them on again at home, they did not fit well. Talk to the staff in the store and try to return the shoes and get your money back.

B You are an employee of XYZ Shoe Shop. In the shop, customers try on shoes before buying them. Therefore, shoes cannot generally be returned. Also, sale items cannot be returned.

例：携帯ショップでの客(A)と店員(B)の設定

A You bought a cellphone at ABC Phone Store yesterday. When you were using it, it stopped working. Explain what happened to the staff in the store and try to get a new phone.

B You work at ABC Phone Store. Customers often come to replace their broken cellphones, but it is difficult to tell if the customers are responsible for breaking the phones, so you generally refuse to replace them.

B1 → B2を目指すための指導案②

目標 交渉をする、苦情を言うなどのやりとりができる

目安時間
15分

準備物 ロールプレイカード/タイマー

ロールプレイカードの他の例については左ページの例を参照。

例：学校での生徒(A)と先生(B)の設定

A You are a student at Green High School. You missed a test the day before yesterday. Explain to the teacher why you missed the test and ask for a make-up test. You made the same mistake before, so you feel bad about it.

B You are an English teacher at Green High School. You gave the final test two days ago. You told students who didn't attend the test to take a make-up test yesterday. Also, students who have had the same problem before cannot take the test again.

ステップ
1
(全体)

- 生徒を3人のグループに分け、1人は交渉をする役、1人はそれに対応する役、最後の1人はジャッジの役とする。交渉役の生徒にはカードA、対応役の生徒にはカードBを渡す。
- 交渉をする役(A)と対応する役(B)に1分間の準備時間を与える。

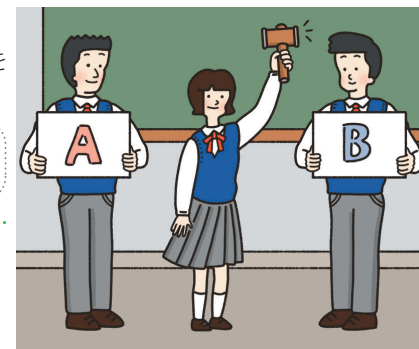
ジャッジが不要な場合はペアで行ってもよい。

ステップ
2
(グループ)

- 生徒に3分間ロールプレイを行わせる。交渉をする役(A)から話し始める。
- 時間が来たらロールプレイを止め、ジャッジに、交渉をする役(A)の要求が通ったか判断させる。
- 各グループのジャッジの判断を理由とともに確認する。

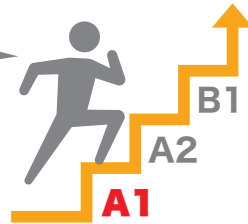
ステップ
3
(グループ)

- グループはそのまま、役とロールプレイカードの設定を変えて、同じ活動を行う。



POINT

教師の関わり方：英語の発話に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ3のあと、多くの生徒が間違えて表現したものを1～2つ挙げ、黒板に正しい表現などを書いて、クラス全体で確認する程度にしてください。



問題と回答例

Q. あなたが今、「やってみたいこと」や「やっておくべきだと思うこと」について、自分の考えを書きなさい。

A1下位 回答例



I book read. Intresting.

A1下位の特徴

センテンスを使って**アイデアを表現することがまだ苦手**です。



A1上位 回答例



I want is read book. interesting.
And, writing book is future.

A1上位の特徴

簡単なアイデアであればシンプルな単文で表現できます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A1下位 → A1上位を目指すための指導案

目標

単語レベルから、簡単なセンテンス(S+V)でアイデアを表現できる



目安時間

20分

準備物 ピクチャーカード

性別や年齢の異なる2人がある動作をしているカードを複数個用意する。動作はどのカードも同じにし、動作の対象、方向が異なるものにする。センテンスを言わせることが目的のため、単語を言えばどのピクチャーカードかわかるようなものは使用しない。

ステップ

1

(全体)

- 3つのピクチャーカードを黒板に貼る。
- 生徒にピクチャーカードに描かれている情報を英語のセンテンスでノートに書かせる。
- ピクチャーカードを黒板から取り除く。
- 数名の生徒を選び、各自、ノートに書いたセンテンスの中から1つだけ選び、黒板に書かせる。
- 1つずつカードを見せ、黒板に書かなかった生徒に、カードと一致しているセンテンスがあるか聞く。

ステップ

2

(全体)

- 教師は新しい複数個のピクチャーカードを黒板に貼り、生徒に各自カードの内容を表すセンテンスを書いてもらう。

ステップ

3

(ペア)

- 生徒をペアに分け、1人ずつノートに書いたカードを表すセンテンスを口頭で、半数のみ共有させる。
- もう1人はセンテンスと一致するカードはどれかを黒板を見ながら答える。
- ペア内で役割を変えて同じことを行う。

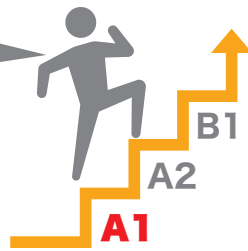
ピクチャーカード例

下記の例と2人の表情が逆、同じ動作で対象が逆のイラストと一緒に使ってください。



POINT

教師の関わり方:英語での表現に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。他の生徒の文章を見ることで、自分の誤りに気がつき、修正するという、自発的な修正を促してください。もし誤りを修正する場合は、全ての誤りを修正するのではなく、主語と動詞の誤り修正のみ行ってください。細かい修正をすると、重要な誤りの習得を阻むことになります。



問題と回答例

Q. あなたが今、「やってみたいこと」や「やっておくべきだと思うこと」について、自分の考えを書きなさい。

A1上位 回答例



I want is read book. Interesting.
And, writing book is future.

A1上位の特徴

簡単なアイデアであればシンプルな単文で表現できます。

A2下位 回答例



I want to read many books. Because books are interesting. I want to read liking books everyday. Sunday is read the books. I want to writing books. Because I have to read many books. But it's difficult.

A2下位の特徴

becauseやsoなどの簡単な接続詞を使い簡単なアイデアを表現できます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A1上位 → A2下位を目指すための指導案

目標

単文から、接続詞で繋げた2文でアイデアを表現できる



目安時間

15分

準備物 ピクチャーカード

簡単な英語の単語とセンテンスで表現できる動作や顔の表現を選ぶ。

ステップ

1

(全体)

- 3つのピクチャーカード(顔の表現で感情を表したもの)を黒板に貼る。
- 3つの中から1つカードを選ぶ。“because _____”を板書し、becauseの後に続くセンテンスを板書する(例:I am happy because I like reading books.)。生徒にもカードを選ばせてbecauseを使ったセンテンスを各自ノートに書かせる。
- 数名の生徒に黒板で共有してもらう。

ステップ

2

(全体)

- 新しい3つのピクチャーカードを黒板に貼る。
- 生徒に各自カードを選ばせ、becauseを使ったセンテンスをノートに書かせる。

ステップ

3

(ペア)

- 生徒をペアに分け、お互いのセンテンスを共有させる。
- 一番面白いと思うセンテンスを各ペアで1つ選ばせる。

ステップ

4

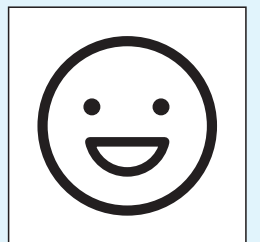
(全体)

- 各ペアで選んだセンテンスを板書させる。
- 板書されたセンテンスを見て一番面白いと思ったものを生徒の多数決で決める。



becauseだけではなく、soを代わりに使って同じ活動を行うことも可能。soを使う場合はピクチャーカードを感情表現の代わりに動作を表したものととして(例:cooking, playing sports, reading a book, talking with friends)、I like～を使ったセンテンスを作る(例 I like cooking, so I joined a cooking class.)。

ピクチャーカード例



喜び



悲しみ

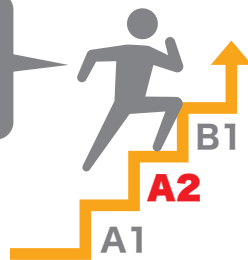


怒り



POINT

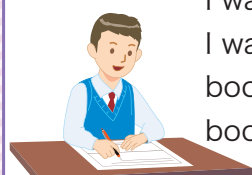
教師の関わり方:英語での表現に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。他の生徒の文章を見ることで、自分の誤りに気がつき修正するという、自発的な修正を目指してください。もし誤りを修正する場合は、全ての誤りを修正するのではなく、主語、動詞、または意味を阻害する単語使用などの大きな誤りの修正のみ行ってください。細かい修正をすると重要な誤りへの気づきを阻むことになります。



問題と回答例

Q. あなたが今、「やってみたいこと」や「やっておくべきだと思うこと」について、自分の考えを書きなさい。

A2下位 回答例



I want to read many books. Because books are interesting.
I want to read liking books everyday. Sunday is read the books. I want to writing books. Because I have to read many books. But it's difficult.

A2下位の特徴

センテンスを**接続詞**などで繋げて簡単なアイデアを**シンプル**な英語で表現できます。

A2上位 回答例



I want to read books in free time. Because reading is fun and inportant. I want to be writer in the future. So, I read many books. My goal is many kinds of books everyday. For example, histry, and love story, and so on. And I can know many thing by books. I can read other people's thinking in books. I think this is inportant. So, I want to read the books.

A2上位の特徴

複数のセンテンスを繋げて**日常的なトピック**についてアイデアを表現できます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

帯活動を使った指導案

なかなかまとまったWritingの指導時間が取れない場合は、毎授業の始めに短い帯活動を行ってみてください。日常に関するトピック(例:What did you do this weekend?)を示し、生徒に3分間ノートに書かせるなどがあります。短時間でアイデアを英語にすることに慣れ、長い英文が書けるようにする活動なので、誤りを訂正する必要はありません。

A2下位 → A2上位を目指すための指導案

目標 3文以上を順序立てながら長めの英文が書ける



目安時間

45分

準備物 ピクチャーストーリー

ピクチャーストーリーは、4コマのうち最後の2コマを隠す。



簡単な英語の単語とセンテンスで表現できるものを選ぶとよい。

ステップ

1

(全体)

- ピクチャーストーリーを黒板に貼る。ストーリーの内容を説明する必要はない。
- 生徒に最後の2コマでストーリーがどのように終わったか考えさせ、アイデアを日本語で共有させる。

ステップ

2

(全体)

- 生徒に各コマのアイデアを“I”を主語にして口頭で共有させる。
- 各コマを繋げるのに役立つ表現をいくつか板書し紹介する(例:then, after that, next day, so)。
- 生徒にそれらの表現を使ったストーリーを口頭で共有させる。



ステップ1で出てきたいろいろなエンディングを想定して、様々なストーリーを生徒から引き出すとよい。

ステップ

3

(各自)

- 新しい4コマのストーリーを黒板に貼る。
- 生徒に英語で“I”を主語にしたストーリーをノートに書かせる。

ステップ

4

(ペア)

- 生徒をペアに分け、各自で書いたストーリーを口頭で共有させる。
- お互いのアイデアを使いペアごとにストーリーを完成させ、ノートに書かせる。

ステップ

5

(全体)

- 数ペアにストーリーを板書させる。



ユニークで面白いと思ったストーリーや、上手に英語で表現できているものは特に褒めるとよい。

ピクチャーストーリー例



1 コマ目:少年と少女がコンサートに来ている。
2 コマ目:少年が少女とはぐれてしまった。



1 コマ目:親子が公園でサッカーをしている。
2 コマ目:ピクニックをしている女性の弁当にサッカーボールが当たってしまった。



POINT

教師の関わり方:英語での表現に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ5で他の生徒が板書したのを見るなどで、自分の誤りに気づいて修正するという、自発的な誤り修正をさせてください。

指導の発展方法:絵本を使い、文字を取り除いた状態で、3～4人のグループでストーリーを考えて書くなどの活動もできます。



問題と回答例

Q. あなたが今、「やってみたいこと」や「やっておくべきだと思うこと」について、自分の考えを書きなさい。

A2上位 回答例

I want to read books in free time. Because reading is fun and important. I want to be writer in the future. So, I read many books. My goal is many kinds of books everyday. For example, history, and love story, and so on. And I can know many thing by books. I can read other people's thinking in books. I think this is important. So, I want to read the books.

A2上位の特徴

複数のセンテンスを繋げて日常的なトピックについて書くことができます。

B1 回答例

I want to read many books in my free time. I have two reasons for it. First, I can enjoy my free time by reading the books. There are many favorite books, for example, history and love story. It is interesting to know people's feeling in the story. Second, my dream is to be a writer in the future, so I want to know a lot of stories by many writers. It is good to read many kinds of books because reading many kinds of books will help me learn how to write many kinds of stories. For these reasons, I want to read many books in my daily life.

B1の特徴

パラグラフの長さの内容を整理してわかりやすく説明ができます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A2上位 → B1を目指すための指導案

目標 パラグラフの長さの内容を整理してわかりやすく説明できる

目安時間
30分

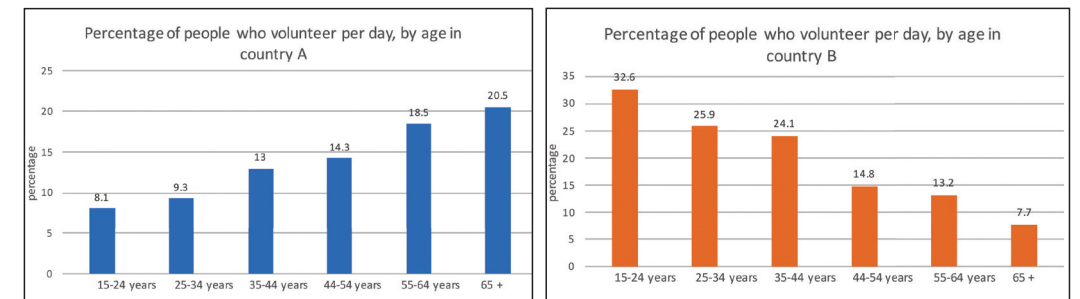
準備物 グラフ/ 1～4までの番号が書かれたカード

グラフの選び方: 簡単な英単語と文法で説明できるものや、生徒が意見を言いやすいテーマを選ぶ。また、比較するグラフは、同じテーマだが傾向がはっきり異なるものを選ぶとよい。

ステップ
1
(全体)

- 2つのグラフを黒板に貼り、どちらか1つについて説明する英文を板書する。

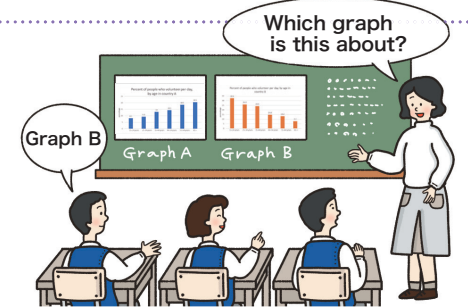
グラフの例



ステップ
2
(全体)

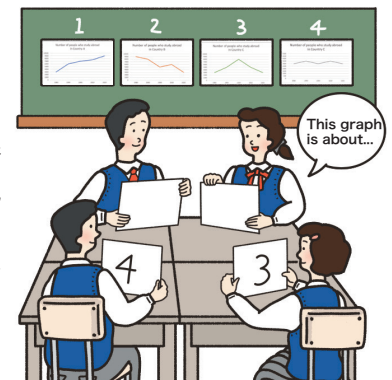
- 生徒にどちらのグラフについて説明しているか当ててもらう。

クラス全体で挙手させてもよい。自信がありそうな生徒には、理由を答えてもらう。



ステップ
3
(グループ)

- 新しい4つのグラフを黒板に貼り、各グラフに1～4までの番号をつける。
- 生徒を4人のグループに分け、1～4まで1つずつ番号を振ったカードを、伏せたまま1人1つずつ引いてもらう。グループメンバーに引いた番号を隠したまま、自分の番号に呼応するグラフの英文、そしてそれに対する意見を書かせる。
- 書いたグラフの説明と意見をグループ内で順番に口頭で共有させる。全員が共有したあと、誰がどのグラフの説明をしたかをグループ内で確認する。



教師の関わり方: 英語での表現に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。ステップ3で他の生徒の発話を聞くことを通して、自発的な誤り修正を促してください。

